# JAPIC NEWS

2009
8
No.304

■ 財団法人 日本医薬情報センター（JAPIC）ジャピック

## CONTENTS

▶巻頭言
超える「常識」、守る「常識」　日本製薬工業協会　常務理事　三好 敏昭 …… 2
▶インフォメーション
○7月末に発行しました！
「JAPIC医療用医薬品集2010」検索用CD-ROM付 …… 4
「JAPIC医療用一般用医薬品集インストール版2009年7月版」 …… 4
○更新情報メールサービス申込み開始〈JAPIC「医療用医薬品集」2010〉 …… 4
○8月末発刊！新薬承認審査報告書集「日本の新薬」31～35巻 …… 5
○9月1日発刊！「JAPIC一般用医薬品集2010」 …… 5
○JAPIC OTC医薬品CD-ROM〔Windows対応CD-ROM〕発売のお知らせ …… 5
▶トピックス
日常診療で使えるWeb版病名検索システム
－第13回日本医療情報学会春季学術大会スイーツセミナーで講演！－ …… 6
「理事会」「評議員会」の概要報告 …… 7
平成21年度JAPICユーザ会参加記
(1)JAPICのサービスについて　参天製薬株式会社　西田 祥子 …… 8
(2)JAPICユーザ会に参加して　田辺三菱製薬株式会社　岸 郁子 …… 8
(3)JAPICの事業を知る機会を得て　ノバルティスファーマ株式会社　碓井 悦子 …… 9
(4)ホームページから出会った新しいJAPIC
ブリストル・マイヤーズ株式会社　恩田 智恵美 …… 9
▶コラム
期待される薬剤師になるために
(社)岩手県薬剤師会 くすりの情報センター　高橋 菜穂子 …… 10
☆会員の声　*Yes, we can !*　アストラゼネカ株式会社　島 明子 …… 12
くすりの散歩道 No.26　JAPIC誕生のいきさつ
(財)日本医薬情報センター開発企画担当　日高 隆幸 …… 13
外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より－(抜粋) …… 14
▶図書館だよりNo.230　▶情報提供一覧 …… 15

巻頭言

# 超える「常識」、守る「常識」

日本製薬工業協会　常務理事
JAPIC評議員　三好 敏昭（Miyoshi Toshiaki）

最近読んだ本で、木村秋則著「リンゴが教えてくれたこと」という新書本がありますが大変感動しました。既に読まれた方もいらっしゃると思いますが、「絶対不可能」を覆した農家・木村秋則の記録、「奇跡のりんご」というNHKのドキュメント本が売れて、その木村さん自身が書かれた新書版です。その内容は無農薬無肥料でリンゴを育てるという、リンゴ栽培の「常識」では無謀とも言われる挑戦に挑み、10年を掛けて成功した、という著者の朴訥とした人柄からは想像できない、信念を絶対曲げない職人さんのお話です。その成功するまでの間、経済的にも肉体的にも、また地域での偏見など、大変ご苦労された事が書かれています。無農薬無肥料リンゴに成功するまでに、何度も何度も実験を繰り返し、信念で成功に導かれた著者の努力は頭が下がる思いです。お米、野菜も同様に無農薬無肥料で育てられています。この本を読んでいるとそれまでの「常識」にとらわれず、信念を貫く重要性を示してくれました。今は海外でも指導をされているとの事です。詳しい内容は是非ご一読下さい。どんな仕事でも同じですが、新しい事をやり遂げる、見出すといった場合には、「常識」にとらわれず、高い目標を信念を持って取り組むということが非常に重要だ、という事を教えてくれます。

私は現在、日本製薬工業協会で仕事をさせて頂いておりますが、昨年、製薬会社を退職致しました。私の現役時代は研究所、工場、企画部門、海外勤務と色んな仕事を経験させていただきました。その間、合併もあり、お陰で色んな観点から製薬ビジネスを見ることができました。もちろん転勤も幾度と無くありましたが、今振り返ると、20代後半から30代での仕事が最も仕事に専念できた時代ではなかったかと感じます。私のその時代には、新薬開発過程で製造方法を商業ベースに乗せるための技術改良に携わり、対象は微生物を利用した抗生物質であったり、また遺伝子組み換えタンパクであったりしましたが、多分、その時代はマネジメントに関わる「雑念」も多くなく、仕事に専念できる良き時期だったのでしょう。その時期を振り返ると、信念を持って「常識」にとらわれない、という事を意識していた訳ではありませんが、頭もまだ柔らかく、結果として高い目標を達成するためには、「常識」から解放されなければ達成できないという事を学んだように思います。もちろん良いテーマ、良き先輩たちのリードに恵まれる事も大事な要素ですが、その時代に培われた仕事の進め方、考え方、というものは後になっても大変大きく影響しているように思います。

医薬品開発は10年、20年の長い開発期間を必要とし、また成功確率も極めて低い、ハイリスクビジネスですが、生涯で2つも新規医薬品の成功に立ち会えれば御の字です。そのかわり、それまでの長い積み重ねの苦労も、新しい成果に結びついたときの喜びは何物にも替えがたく、生涯忘れられないものになります。そのような喜びがあるからこそ、熱意を持って仕事を続けられるのでしょう。

このように新しい発見、新しい技術を見つけるとかいう場合には「常識」が足かせになる場合が多々ありますが、ビジネスにはいろんな要素があり、逆に「常識」というものが極めて重要な場合も多々あります。いわゆるコンプライアンスの問題です。製薬会社であれば、すばらしい効能を持つ医薬品を高品質で適正な価格で患者さんに届ける、といった場合、医薬品を製造し、医療機関に届けるという仕事では、「常識」というものは大変重要になります。この場合の「常識」は一般人にとっての「常識」で、狭い社会での「常識」ではありません。医薬品ビジネスも他のビジネス同様、世界を相手に熾烈な競争をし、スピードが大変重要な要素になります。だからといって、たとえば、医薬品の品質をおろそかには出来ません。また、高品質とコストのバランス感覚もとても重要な要素になります。絶対超えてはいけない一線をしっかり見極めることが重要になります。まさしくそれは「常識」で判断すると、いたって容易な場合が多いのも事実です。品質に関する不祥事は時々ニュースになりますが、問題発生ケースでは、どこかで「常識」を忘れ、超えてはいけない一線を越えてしまうのでしょう。営業の経験はありませんが、営業活動でも同じではないかと思います。

長年、同じ業務を続けていると、得てしてその部門の「常識」に染まってきます。その時に基本としてしっかり持っておかなくてはならないのは「常識」ではないかと思います。その時に重要な役割を担うのがマネジメント層です。管理職になり、さらに上に行けば行くほど、狭い世界の「常識」に影響を受けやすくなることも事実ですが、そこは本来の「常識」を忘れないようにしなければならないのでしょう。

また、その「正しい常識」も世界から見るとまったく違った風景に見えることがあります。当然の事ながら、文化、宗教が異なるわけですから当然と言えば当然ですが、海外で生活するとよく分かります。例えば、仕事に対する考え方、休暇に対する考え方は日本人と全く異なる事はよく知られています。日本人は基本的に仕事が善で、休みは罪悪、みたいな所が根っこのところで持っているような気がします。キリスト教圏ではこれが全く逆なのでしょう。またマネジメントでも、雇用の流動性、チームワークと個人プレー、意思決定のタイミング、組織と個人、男女雇用均等に対する考え方、など海外で仕事をしていると、そのネタには事欠きません。また医薬品製造では、その「品質」に対する考え方の違いもよく指摘されているところです。

私も、延べ5年半アイルランドに駐在しておりましたが、その駐在員時代に、定期的に運転の路上研修を受けさせられました。これは社有の車を運転するため保険契約を有利にするための義務でしたが、約2時間ほどの路上研修は、高速あり、細い曲がりくねった田舎道ありで、結構な距離を、いつも通りの運転で走ります。その後、評価表が送られてきます。私の評価は一つの点を除いてまずまずの評価でしたが、それはハンドル捌きで「クロスハンドル」と「送りハンドル」の違いです。運転中も何回も注意されましたが、それは「クロスハンドル」の厳禁でした。私は、日本の教習所で教えられた方法で、体も覚えているので今更変えられない、と言ってはみましたが、一応教官の言うとおり何度か「送りハンドル」を試しましたが、交差点での右左折ではとてもぎこちなく上手には出来ませんでした。結局、路上研修中「クロスハンドル」で通し、結果は評価表に「ハンドルさばきは良くない」と書かれていました。

このように国が変われば異なる「常識」も多々あります。日本以外の地でビジネスをするようになると、日本の「常識」も「常識」でなくなります。欧米の多国籍企業は多種多様の従業員で構成され、文化の違いを超えてやっています。言葉の問題も大きな要素ですが、最近、日本の製薬企業でも重要ポストに非日本人が付くようになってきています。研究（創薬）、開発、製造の幹部が多種多様になり、また、グローバル化が進み欧米に限らず外資系の存在感も大きくなってくると、その時は日本の製薬業界の風景は相当変わってくるのかもしれません。

これからは、多様な価値観を認めつつ、一人一人の個人にとって自分のしっかりした信念と「正しい常識」を持つことがますます重要になってくるのではないでしょうか。今は10年前の世の中と比べ何もかも随分代わりましたが、ますます速いスピードで10年後も大きく変化していることでしょう。大変楽しみです。

# Information

## 7月末に発行しました！
## （1）「JAPIC医療用医薬品集2010」検索用CD-ROM付
### 本書は、5月の後発品収載に対応しています。

《JAPIC医療用医薬品集2010の特長》

◇2009年6月薬価基準収載分までの医療用医薬品を網羅（約17,000製品）。

◇医療用医薬品添付文書情報を有効成分ごとにまとめて掲載し、先発品（またはそれに準じると思われる医薬品）と後発品及び局方品がより明確に区別できるように記載。

◇同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより適応が異なる場合はその違いを明記。

◇“JAPIC医療用一般用医薬品集インストール版2009年7月版”の機能を限定した検索用CD-ROM（非インストール版）を添付。

◇価格は据え置きの¥13,650（税込）。

## （2）「JAPIC医療用一般用医薬品集インストール版2009年7月版」

《JAPIC医療用一般用医薬品集インストール版2009年7月版の特長》

◇2009年6月までの医療用・一般用医薬品情報及び医療用医薬品識別コード情報を収録。

◇各種情報の検索・閲覧、収録テキストデータを利用した院内採用医薬品集作成機能を搭載。

◇提供媒体はWindows・Macintoshハイブリッド版DVD-ROM、とWindows版CD-ROMの2種類（収載内容は同一です）。

◇価格はCD-ROM、DVD-ROM共に¥15,000（税込）。

※Macintoshへの対応は2009年7月版までとさせて頂きます。10月版からはWindows版CD-ROMのみの提供となります。

## 更新情報メールサービス　申込み開始
## 〈JAPIC「医療用医薬品集」2010〉

本年も“JAPIC「医療用医薬品集」2010”の更新情報メールサービスを開始いたします。本サービスは、“JAPIC「医療用医薬品集」2010”のご購読者の皆様を対象とし、無料で、毎月の更新情報リストと更新情報を公開するサービスサイトのURLを電子メールで登録者の方にお知らせするものです。

このサービスサイトでは、過去の更新情報リスト、更新情報履歴一覧などもご覧いただくことができ、“JAPIC「医療用医薬品集」2010”の更新情報をPDFファイルにて提供しております。〔提供内容は新規成分・重要な改訂を網羅した更新情報シール（有償）と同一です〕

申込みフォーム（URL： https://www.japic.or.jp/iryou2010.html）に必要事項を入力し、ご登録ください。本サービスのご案内は、表記医薬品集巻末の綴じ込みはがきにも掲載されておりますので、ご参照ください。

## 8月末発刊！
## 新薬承認審査報告書集「日本の新薬」31～35巻

本書は独立行政法人医薬品医療機器総合機構で行われた新医薬品の承認審査の報告書（以下審査報告書）をまとめて編集したものです。平成20年1月～12月までに承認・公表された55品目を承認月順に収載したもので、31～35巻の5分冊にまとめました。

各巻は成分名の五十音順に配列され、訂正のある報告書については、1～30巻同様本文中に修正前と修正後がわかるように編集しています。昨年7月に発刊いたしました「日本の新薬」26～30巻（平成19年1月～12月承認分を承認月順に収載）に引き続いての刊行となり、全35巻では516品目を収載いたしました。なお、1～20巻（平成10年～平成17年承認分）は、薬効別で収載しています。

新薬承認申請の際の参考資料として、また大学の医薬品情報およびレギュラトリーサイエンス教育用の教材・資料としてご利用いただけます。

## 9月1日発刊！「JAPIC一般用医薬品集2010」

来る9月1日に「JAPIC一般用医薬品集2010」を発刊致します。この書籍は、リスク区分を各製品について掲載するなど改正薬事法施行により、変動しつつある一般用医薬品の現状に対応しております。

《JAPIC一般用医薬品集2010の特長》

◇国内流通の一般用医薬品、約11,000製品を収録（2009年7月までの一般用医薬品情報を収載）。

◇各製品の組成・効能効果・用法用量を掲載すると共に、薬効ごとの「使用上の注意記載要領」を記載し、更に新一般用医薬品などの「使用上の注意」を収載して添付文書記載内容を網羅するよう編集。

◇一般用医薬品販売に必須情報である、医薬品製品ごとのリスク区分を本文（製品説明部分）及び50音索引に掲載。探している医薬品のリスク区分がすぐに判ります。また第一類医薬品のみを集めた索引に製造販売会社などの情報を付加した第一類医薬品索引を収録。

◇付録として配置販売品目指定基準・一般用医薬品のリスク区分一覧（成分）・ブランド名別成分比較表を収載。

◇価格は据え置きの¥9,450（税込）

○上記書籍のお得なセット販売などもございますので、ご購入される方は事務局 業務・渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）までお問い合せ下さい。

## JAPIC OTC医薬品CD-ROM〔Windows対応CD-ROM〕発売のお知らせ

JAPICでは先日施行された改正薬事法に基づく一般用医薬品販売制度改正に対応した一般用医薬品添付文書検索データベース“OTC医薬品CD-ROM”を9月末に発売を予定しております。

トピックス
TOPICS

# 日常診療で使えるWeb版病名検索システム

## 第13回日本医療情報学会春季学術大会スイーツセミナーで講演！

「医薬品と対応病名検索システム（病名ナビ）」は、本年3月から開始した新しいサービスです。6月13日（土）～14日（日）に開催された「第13回日本医療情報学会春季学術大会」のセミナーで病名ナビが取り上げられました。また、同学会において病名ナビの展示も行いました。展示をご覧頂いた方々のご意見も合わせてご報告します。

病名ナビはJAPICが作成した「医薬品と対応病名データベース（病名データ）」を元に作成した検索システムです。本誌4月号でご案内しましたが、医療用医薬品添付文書の「効能効果」と対応する「標準病名」を相互に検索するものです。

第13回日本医療情報学会春季学術大会は長崎大学医学部にて開催されました〔大会長：本多正幸　先生（長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療情報学）〕。初日は曇天でしたが参加者は800名近くが参加し、盛況でした。

病名ナビのLAN版を導入していただいた、長崎医療センター 木村先生にご講演いただきました。

スイーツセミナー：日常診療で使えるWeb版病名検索システム～JAPIC添付文書記載病名データベースの有用性～
講師：国立病院機構長崎医療センター　情報管理運営部長　木村 博典 先生
座長：長崎大学病院　医療情報部副部長　松本 武浩 先生
共催：日本医薬情報センター（JAPIC）

長崎大学医学部の創始者である松本良順先生にちなんで名づけられた「良順会館」2階にて、スイーツセミナーは行われ、約160名が参加し会場はほぼ満席となりました。

講演は開催地の長崎の名所の紹介やミニ長崎弁講座が挟み込まれ、親しみやすい内容で進められました。

参加した方々はスイーツ*を頬張りながらの聴講でしたが、長崎ならではの名所案内、ミニ長崎弁講座もあり長崎を充分堪能していただくという趣向です。

まず「ようこそ」という意味の長崎弁とグラバー園の紹介から始まり、最後は「バッテン（しかし、いや）」の由来は「but not」とのこと（ただし、諸説あるようです）。続けて医療現場にも病名に方言があることに触れ、本題に入られました。

会場の様子

診療現場（カルテ記載）では方言病名を使い、レセプト請求時には方言病名を標準病名（約2万病名）に変換して請求している病院があり、非効率的である。このような診療現場では医薬品の効能・効果と標準病名・ICD-10コードを関連づけたデータベースが必要であること。JAPICによって信頼性の高い添付文書記載病名データベースが作成され、臨床現場の専門医師、薬剤師の意見を踏まえた評価が記載されていること、レセプト業務における効率化が可能であり、審査機関での査定減少による増収が期待できることなどが紹介されました。長崎弁を紹介しつつ、最後に方言の良さもあるが、現在を生き抜くには他者とのコミュニケーションに標準語が必要であり、医療の標準化には標準病名を使用する必要があると説いておられました。

質疑応答では病名ナビの機能に関心が集まり、実際の導入に向けての具体的な質問が多く出ました。参加者の関心が高く、好評だった点は、①サーバを用意すれば施設内の利用台数制限のないLAN版、②インターネット環境があれば1台からでも導入可能なWeb版など導入のし易さ、③医薬品と標準病名の対応がわかりやすく表示される、④最新の添付文書画像（PDFファイル）の表示が出来る、⑤基本情報の確認が簡単に出来る、など実際にデモをご覧頂いた方々からも高い評価をいただきました。

企業展示ブースで紹介した際にいただいた意見も同じく、医薬品と標準病名の対応の判りやすさ、検索システムのシンプルな使い勝手が好評でした。院内採用医薬品の絞込み機能の質問を受けましたが、現在は対応しておらず、今後の課題となりそうです。

（業務渉外担当：池上 武司）

注＊）：当日のスイーツは大会委員によって予め選定された、地元長崎のびわゼリー、シースクリームなどでした。最近テレビで紹介されたこともあり、なかなか評判でした。

企業展示会場：ポンペ会館

## 「理事会」「評議員会」の概要報告

5月27日（水）に平成21年度第1回理事会、29日（金）に平成21年度第1回評議員会が開催されました。議題と主な内容は以下のとおりであり、すべて原案どおり承認・議決されました。

今回の議題でありました、平成20年度事業報告・決算報告においては、事業及び決算ともに概ね順調に推移していることをご報告させていただきました。平成20年度事業報告書・決算報告書は、先般会員の皆様へお届けいたしました。

### 「平成21年度第1回理事会（通算第112回）」 5月27日（水）14:00～15:40／当センター3階会議室

議題

1. 評議員の選任について
2. 維持会員・賛助会員の異動承認について
3. 平成20年度事業報告の承認について
4. 平成20年度決算報告の承認について

### 「平成21年度第1回評議員会（通算第26回）」 5月29日（金）15:00～16:45／当センター3階会議室

議題

1. 理事の選任について
2. 平成20年度事業報告の承認について
3. 平成20年度決算報告の承認について

### 役員・評議員の異動（※敬称略）

《理　事》

退 任：前川 重信（日本新薬 代表取締役社長）
：宮本 政臣（武田薬品工業 医薬研究本部副本部長）
以上 5月29日付

新 任：中岡 一郎
（武田薬品工業 医薬開発本部日本開発センター所長）
：矢野 純一（日本新薬 取締役研究開発担当）
以上 5月30日付

《評議員》

退 任：朝倉　均（前 財団法人国際医学情報センター 理事長）
以上 5月27日付

新 任：相川 直樹（財団法人国際医学情報センター 理事長）
以上 5月28日付

# 平成21年度JAPICユーザ会参加記

## JAPICのサービスについて

参天製薬株式会社　信頼性保証本部　安全性管理室 西田 祥子（Nishida Shoko）

私は現在、信頼性保証本部 安全性管理室に所属し、安全性情報収集に携わっております。JAPICのサービスでは、国内医薬文献・学会情報速報（JAPIC-Q）、外国措置情報（JAPIC Daily Mail）を導入しております。

今回のJAPICユーザ会では、JAPIC概要、事業計画、新規事業、1）JAPIC AERS、2）医薬品と対応病名検索システム（病名ナビ）、3）JAPIC Daily Mail Extraに関する紹介と、ニプロファーマ株式会社：平子先生のJAPIC情報活用事例の講演、医薬品医療機器総合機構：広瀬先生の医薬品安全対策の現状についての特別講演がありました。多くの興味深い演題がありましたが、今回はJAPIC Daily Mail Extraに関する情報収集を目的に参加しましたので、JAPIC Daily Mail Extraについて感想を述べさせていただきます。

弊社では外国措置情報は、JAPIC Daily Mailから情報収集しておりますが、自社に関連する情報を毎回検索したいと以前から考えておりました。JAPICに問い合わせたところ、JAPIC Daily Mail 利用者はiyaku Search画面でJAPIC Daily Mailデータベースから情報を検索できるとうかがい、データベース検索しました。しかし、本画面ではキーワードが登録できず、手順が煩雑でした。

今回サービスを開始するJAPIC Daily Mail Extraでは、多くのキーワード登録が可能で、かつJAPIC Daily Mail送信から数分後に検索結果が届き、キーワードがハイライトされるとのことで、非常に有用なサービスと感じました。弊社ではユーザ会参加後、JAPIC Daily Mail Extraを導入することとなり、省力化が図れました。

懇親会では、参加者から多くの情報を頂き、大変参考になりました。新型インフルエンザの影響か大阪会場は参加者が少ないようでしたが、懇親会では質問も気軽にできますので、情報収集の面で皆様に参加を勧めたいと思います。

JAPICのサービスは、安全性情報を管理している部門にとって、なくてはならないものです。今後ともGVPに沿った新規サービスの開発、サービス改善を継続的にご実施いただくようお願いいたします。

## JAPICユーザ会に参加して

田辺三菱製薬株式会社　信頼性保証本部安全管理統括部　安全性情報部　岸 郁子（Kishi Ikuko）

私は製薬会社にて安全性情報の収集に関っており、JAPIC-Q サービス、JAPIC Daily Mailなどのサービスを利用している、JAPICのユーザーとしてはごく一般的な参加者ではないかと思います。今回、このJAPICユーザ会に参加させて頂いたのは、新規サービスであるJAPIC Daily Mail Extra について、サービスの詳細について確認するのが主な目的でした。当社は3回の合併を経ていることもあり、品目の整理もある程度は行われているのですが、承認品目の成分数だけで100を超えているためJAPIC Daily Mailのモニターは担当者にとって大変負担になっておりました。そのため、登録品目が自動でピックアップされるJDMエクストラは当社としても導入が待たれていたサービスでした。ぜひ、活用していこうと思っております。また、私の担当ではないのですが、JAPIC AERSについても、シグナル検出を行う部署で活用していくものと思っております。

今後も、医薬品企業の安全性関連業務を支援する新しいサービスの提供をお願いいたします。また、特別講演として医薬品医療機器総合機構の広瀬課長より、医薬品安全対策の現状について講演があり、データマイニング等の手法を用いて、副作用の早期検出により副作用の発生を最小化しようとしていること、レセプトデータなどからのシグナル検出も検討されていることなどの、様々な施策について紹介されていました。

今後も、医薬品医療機器総合機構などの行政担当者、医療専門家等の講演をぜひ行って欲しいと思いました。

## JAPICの事業を知る機会を得て―ユーザ会参加記

ノバルティスファーマ株式会社　開発本部薬事部　レギュラトリーリエゾングループ　碓井 悦子（Usui Etsuko）

一時的に携わっていた業務の関係でユーザ会の存在を知ることとなり、初めて参加いたしました。恥ずかしいことに、「JAPIC」は良く知っているものの、その日本語名称を「日本公定書協会」と混同していた過去があり、一度ちゃんと知ってみたいと思ったからです。

6月11日に長井記念館ホールで開催された平成21年度JAPICユーザ会は、私の想定を超え、ホールいっぱいの来場者が来られていました。講演は、新規事業を含めた事業説明から始まり、JAPICが提供されている情報利用の具体例が製薬業界を代表されて日本ジェネリック製薬協会から発表されました。最後に特別講演として医薬品医療機器総合機構安全部から医薬品安全対策の現状について説明がありました。

講演を聴くまでJAPICの設立背景などの歴史も知らず、提供されている情報サービスも極一部しか把握していなかったことを改めて知ることになりました。おそらく、弊社において、科学情報のサービス業務等を専門に行っている者を除くと、多くが私と同じような知識なのではないかと思われ、なんともったいないことをしてきたのかと反省されられました。

今回、ユーザ会に参加して知ったことのうち、私にとって最も有益であったことは、JAPIC図書館の存在です。絶版になった書籍を必要としている同僚に、早速図書館の存在を伝えることができました。残念ながらwebでの図書館検索では見つけることはできなかったようですが、社外に専門の図書館を持ったと同じと考えると、ありがたい情報でした。

また、今回の新規事業として報告があった、Adverse Event Reporting System （AERS）は、自社品の安全性に関連して類薬の安全性情報が必要な際に広く活用されていくものと思われました。今、FDAから始まり、本邦においても厚生労働省及び総合機構で人員増を含めて安全性にかかわる組織強化を進められている折から、今後注目される情報源になっていくものだと見ております。

私自身は、薬事に携っているものの安全性に関する業務は専門でないため、JAPICが提供されている医薬品類似名称検索などの限られた情報サービスの存在しか知らないでおりました。本年度の事業計画としてJAPICの情報普及と知名度向上を上げておられましたが、膨大で貴重な情報を保持・提供している「日本医薬情報センター（JAPIC）」をもっと広く「売り込んで」いっていただきたいと思うに至ったユーザ会でした。

## ホームページから出会った新しいJAPIC

ブリストル・マイヤーズ株式会社　メディカル情報部　インフォメーションリソース　恩田 智恵美（Onda Chiemi）

JAPICにはパンチカードがけたたましい音で鳴り響いていた時代から大変お世話になっております。業務担当になった頃はユーザ会や図書館にもよくおじゃましていましたが、部署名がカタカナに変わってからは電子ツールに囲まれて仕事をする環境に様変わりしてしまい、毎日メールで届けられるJAPIC Daily MailやJAPIC-Qは目にしてもユーザ会にはすっかりご無沙汰していました。そんな中、ホームページからiyakuSearchにアクセスした時に見慣れないデータベース（効能効果の対応標準病名）があって何だろうと思っていたところ今回のユーザ会の案内にも載っていたので参加させていただいたのですが日頃の不勉強もあって思わぬ収穫が沢山ありました。

先ず、第一に『病名ナビ』ですが、これまで適応症の検索等に使っていたPMDAの添付文書検索サイトやJAPIC医薬品集の検索ツールにICD10が加わった病院向けの商品だということがよくわかりました。第二にはPMDAの広瀬先生の講演を拝聴できたことです。患者への副作用疾患に着目した情報発信の強化などJAPIC-AERSデータサービスとあわせて今後のPMDAの方向性に関するとても有益なお話しでした。第三には懇親会で思いがけず何十年かぶりに会社の先輩と再会できたことです。昔話に花が咲くとても楽しいひとときでした。これら全てJAPICのおかげと深く感謝しております。

後日改めてホームページを拝見しましたが情報が拡充されていてとても探しやすくなっていると感じました。文献複写のWeb申込フォームもあったので早々に海外の医薬品集の依頼に使わせてもらいましたが、FAX送付は無くなったものの安くて大変便利でした。世界の医薬品集一覧サイトも非常に有益なので社内のリンク集に加えて日々活用させていただいております。

暫くぶりのユーザ会ではスタッフの方がずいぶんと変わっていましたがface to faceのコミュニケーションで今はとても身近に感じられるようになりました。医薬情報を取り巻くニーズや環境が日々変化している中でPCをたたけば情報が得られる便利な時代だからこそ顔のみえる新しいサービスの提供をこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

COLUMN コラム

# 期待される薬剤師になるために

（社）岩手県薬剤師会　くすりの情報センター
高橋 菜穂子（Takahashi Naoko）

岩手県薬剤師会は昭和58年10月にくすりの情報センターを開設し、一般県民への医薬情報の提供と適正使用に関わる啓発、医療関係者（特に薬剤師）への医薬情報の提供と活動の支援などを目的とした業務をスタートさせました。

一般県民を対象とした活動は「顔の見える薬剤師」としての活動につながることから現在も重要事業として継続しています。そのひとつが、薬に関する質疑応答です。当初は、質問の約21.6%が用法について、16.2%が漢方薬について、15.7%が薬効について、6.6%が薬剤識別について、6.0%が副作用について…でした。とりわけ印象に残っているのは、薬剤識別や用法、薬効の確認などの医療用医薬品に関わる質問がとても多いということでした。医薬分業を実施している医療機関がまだまだ少ない時期でしたので、一般県民にとっては医療用医薬品について電話で気軽に相談できるところ、それが「くすりの情報センター」という認識だったのだと思います。現在では、会員薬局が地域住民の「かかりつけ薬局」としてその機能を充実させてきていることから、当センターの利用は「かかりつけ薬局」をもたない人や医薬品に関わる相談先として県民医療相談センターや市町村の保健センターなどから紹介された人などが多くの割合を占めています。

二つ目は、薬健康講座の開催です。当センターでは開設の翌年、岩手県からの委託を受けて一般県民を対象に薬の正しい使い方を啓発する事業「くすりの情報センター事業」をスタートさせました。この事業は、県内で薬健康講座を開催し、薬の正しい使い方を啓発するものです。テキストの作成や講師となる会員への支援は当センターが担当し、薬健康講座「みんなの薬の学校」の開催については県内11の支部が持ち回りで、それぞれの地域の住民を対象に企画、広報、実施するものです。年間の開催数も、スタート時の3回から4回、5回、10回と増えていきました。現在では管轄市町村の健康推進課や保健所などの行政機関、社会福祉協議会、老人クラブ連合会、地域婦人団体協議会などの民間団体とゆるやかに連携することで、地域に密着した無料の出前講座「みんなの薬の学校」として定着し、年間100回近い講座開催ができるまでになりました。

医薬品を利用する機会の多い高齢者、その多くが参加している地域活動を主催している各種団体と連携することで、どのような医薬情報が必要とされているのか、どのような行政サービスとタイアップすることができるのか、どのような地域での啓発活動が求められているのかなどを知ることができます。得た情報を基に、その地域の薬剤師が薬健康講座「みんなの薬の学校」の講師を務めます。薬の正しい使い方を啓発したり、薬剤師の仕事をアピールしたり、薬健康相談に回答したりなど、薬剤師への期待に沿う形で実施される薬健康講座「みんなの薬の学校」は、地域住民に「顔のみえる薬剤師」として認識してもらえるよい機会となっています。

また、このような活動は、講師となる薬剤師にも思わぬ効果をもたらします。地域の公民館や集会所で開催され

る講座は、ご近所同士のコミュニケーションの場でもあります。和やかな雰囲気の中で本音を聞くことができたり、薬局での会話からは得られなかった情報を知ることができたり、ときにはびっくりするような薬の使い方が発見されたりもするのです。日常業務中で体験しているカウンターを挟んで指導する側とされる側とのコミュニケーションとは異なり、同じ目線でコミュニケーションが深まることから、薬局での服薬指導もより適切なものとなり「かかりつけ薬局」として充実した活動ができることを実感できます。

さらに、地域保健活動や「健康日本21」の健康づくり活動などにも積極的に参加、協力することにつながり、地域に根ざした活動であることを実感すると同時に、薬剤師職能を地域に還元できていることへの充実感を得ることができます。このことが次の活動の活力となり、アイディアあふれる企画となったり、さまざまな連携関係を構築できたり、さらなる薬剤師への期待となっています。その期待が形になった例が「おくすり・たべもの健康講座」です。これは、薬健康講座「みんなの薬の学校」で質問の多かった健康食品について、薬と食品の飲み合わせについてなどの内容を生かして独立した講座として企画したものです。講座の実施方法は薬健康講座と同じなのですが、講座の内容に幅が広がったことから開催数も増えてきています。

三つ目は、小学生・中学生・高校生などを対象にした青少年薬物乱用防止啓発事業です。当センター開設と同時にスタートしたこの事業は、医薬品の適正使用啓発の一環として高校生を対象に実施されました。当初、生徒指導や非行防止の観点で推進されたこともあり、青少年の飲酒、喫煙防止の内容を盛り込んだ内容での講演を希望される場合が多くありました。

薬物乱用防止の観点と健康づくりの観点、非行防止の観点などをバランスよく盛り込んだ内容はたいへん好評で、次第に小学生、中学生、PTA、地域の住民などを対象とした講演会にも薬剤師会から講師が派遣されるようになって行きました。現在では、小・中・高など学校の保健の教科書に掲載されている内容を踏まえつつ、薬剤師として専門的な内容をわかりやすい形で織り交ぜながら、啓発事業を推進しています。

この事業では、地域の薬局の薬剤師や学校薬剤師が地域や学校での取り組みや指導のポイントなどきめ細かな情報収集を行い、収集した情報を薬剤師会内で共通理解し、

講師のための研修会などで講師同士が情報交換を行って、ニーズにあった講演やわかりやすい資料づくりに反映させてきました。講師の資質向上のための研修会も開催し、会員一人一人が薬剤師として地域住民の期待に応えられるよう努力すると共に、支援体制を整備してきたことが事業の継続につながってきました。好評の継続事業をもつことは、同様の事業を展開している他団体との連携をも推進することとなり、特に、警察とは別々に実施していた学校での講演会を共催し、共同で作成したプログラム（学校、薬剤師会、警察の三者連携プログラム）で実施するといった連携が推進されていきました。

地域保健活動の中で個々の薬剤師がそれぞれの立場で収集した薬剤師への期待や要望、講師派遣を伴う複数の事業に関連して収集した地域の情報が、事業運営の実務を担当している当センターに集約され、地域の現状、健康課題、期待される活動の内容などを把握することができました。そのため、タイムリーな話題や資料を提供することができるので、同じ内容の講演会であっても、参加者には新鮮に受け止められています。毎年度はじめに、これらの出前講座についてのご案内を発送しますが、待ちかねたように申し込みやお問合せがあります。薬剤師会の出前講座は、地域の中で確実に期待され、地域での行事のひとつになってきています。

また近年、地域の学校から会員薬局に職場見学や職場体験の依頼が増えてきています。さまざまな事業をとおして「顔の見える薬剤師」として地域住民に期待される薬剤師になりつつあることを感じています。

薬剤師は、この期待に応え続けられるよう、今まで以上に世界や地域に目を配り、最新の情報を入手し、研鑽を積むことが必要であると感じています。個の薬剤師として薬剤師会として更なる努力をしていきたいものです。

# 会員の声

## *Yes, we can !*

アストラゼネカ株式会社　研究開発本部
臨床統括部　安全性推進部　島 明子　(Shima Akiko)

アストラゼネカ株式会社は、2000年1月にアストラジャパン株式会社とゼネカ株式会社が合併し、発足した外資系製薬会社で、循環器、消化器、呼吸器、ニューロサイエンス、がんの治療領域を中心に、革新的で効果的な製品を提供しております。

アストラゼネカは、「life inspiring ideas」をスローガンに掲げ、患者さんに貢献することを社会的使命としており、新たな創造へと私たちを駆り立ててくれる「生命」というかけがえのないものを対象に業務に従事し、革新的な医薬品を提供することにより「生命」に貢献できるということを常に念頭において事業を展開しています。世界のアストラゼネカは、本社をロンドン（イギリス）に、研究開発本部をセーデルテリエ（スウェーデン）において、強力な研究・技術基盤を確立し、開発とマーケティングを世界的に展開しているダイナミックなグローバル企業です。世界中の患者さんや医療従事者の方々のニーズに応えるため、世界8ヶ国（スウェーデン、英国、米国、カナダ、フランス、インド、日本、中国）にある17の拠点で、世界中のリソースを効果的に活用するグローバルネットワークを構築し、医薬品の研究開発を国際的に推進しています。

アストラゼネカ株式会社の安全性推進部は、研究開発本部臨床統括部に属しており、副作用評価から、対策、調査まで安全性に関するすべての業務を製品単位で行っています。

私は、現在、安全性推進部に所属していますがJAPIC-Qサービスの最初の出会いは、いわゆるDIセンターでの担当窓口として、製品の適正使用情報を医薬情報担当者に提供するためのものでした。また、医療関係者から寄せられる質問についての回答を見つけるためにもJAPIC-Qの文献・学会情報は非常に有効な情報源でした。

その後、私は安全性推進部に異動し、今度はJAPIC-Qの文献・学会情報から、製品の副作用情報を入手し評価することになりました。文献の内容を確認していく作業に違いはありませんが、安全性に関連する情報に注目して文献を確認していくことが以前との違いでした。製品名がタイトルとなった分かりやすい副作用情報もありますが、文献によっては製品の副作用情報の記載があっても、タイトルや要約にはまったく反映されていないこともあります。

しかし、JAPIC-Qの文献・学会情報では、医薬品名以外に内容に関連した適切なキーワードが記載されており、また、資料源となった書誌的情報と副作用症状も含めて送付されるため、製品の副作用を見落とすことなく評価することができます。

措置報告対応においては、JAPIC Daily Mailより外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報が毎日提供されており、また、その要旨は日本語で記載されているため、海外での措置情報をタイムリーに評価することができます。

私達は、JAPIC-Qサービスから医薬品の適正使用（有効性・安全性・品質）についての情報がスピーディーに、かつ適切に提供されるお陰で、製品についての情報を迅速に効率的に評価することができることを日々実感しています。

さて、JAPIC-Qサービスもサービス開始より、提供内容、提供方法において、ユーザーからの要望、ＩＴ技術の進歩、社会情勢の変化に伴い、より進化し変化し続けています。

アストラゼネカの安全性推進部も、より効率的な業務推進のため、大きな組織変更から、細かい業務手順の変更まで、いつも様々な変革にチャレンジしています。変化はただ変わればいいというものでありません。「*Change*」をいかに成功裡に収めるためには？ということで2冊の本をご紹介します。

一冊は2000年に発行された「チーズはどこへ消えた？」です。2匹のネズミと2人の小人が迷路の中に住み、「チーズ」を探します。「チーズ」とは私たちの人生で求めるもの、仕事、家庭、財産、健康等の象徴で、「迷路」はチーズを追い求める場所、会社、地域社会、家庭等の象徴です。物語は単純ですが、状況の急激な変化に如何に対応すべきかを説く深い内容がこめられています。もう一冊は「カモメになったペンギン」です。原題は「Our Iceberg Is Melting」（氷山が溶けちゃうよ）で、ペンギン達がいかに、この未曾有の危機を乗り越えたかという物語です。ペンギン達は著者が提案する八段階の変革プロセスを活用して自分達の新しい氷山を見つけます。要約すると、チーズの方は、「変化しなければ生きていけないよ！だったら、変化を楽しんで変化し続けようよ！」、ペンギンの方は、「同じ変化し続けるのなら、その変化が必ず成功するプロセスを踏んで、変化していくのがいいよね！」ということだと私は理解しました。興味がわけば、ご一読下さい。

*Let's enjoy changing ! We can change successfully !*

くすりの散歩道 NO.26

## JAPIC誕生のいきさつ

（財）日本医薬情報センター開発企画担当　日高 隆幸（Hidaka Takayuki）

JAPICが財団法人として設立されて今年で37年になります。今回はJAPICが誕生したいきさつについて簡単にご紹介してみたいと思います。

JAPICは、1972年12月に民法34条に基づく設立許可により、財団法人として発足しましたが、その2年前の10月に日本製薬工業協会（以下「製薬協」）加盟の有志25社によって任意団体「日本医薬情報センター」（以下「旧センター」）として設立されました。

旧センター設立の発想は、1969年頃に製薬企業が資本自由化対策の一環として、医薬品に関する技術情報の合理的共同管理を行うことを目的として設立が考えられるようになり、その後70年代に入ってからは、自由化対策と一応切り離して「製薬企業として当然取り組むべき本来の事業である」という認識のもとに設立の具体化が進められました。

旧センターでは、まず国内情報の情報収集管理に重点を置き、副作用情報に限らず、有効性情報、開発情報、規制情報などを含めた医薬品に関するあらゆる情報を収集して、そのシステム化に着手することに取り組みました。これが、後の「日本医薬文献抄録カード」、さらに、データベース「JAPICDOC」に発展していくことになります。

このようにして旧センターの事業もようやく緒についてきた1972年、公共性を持った公益法人を設立しようという機運が高まり、厚生省薬務局企画課（当時）の予算に「資本自由化対策の一環として医薬情報調査に関する委託費」が計上され、公益法人化の問題が具体化されるに至りました。

このため、旧センター内に「法人化検討委員会」、ついで「法人設立準備委員会」が設けられ、それぞれ法人化に関する諸問題について具体的事項の検討が進められるとともに、新法人が設立された場合は旧センターの全財産を、新法人に寄付することが旧センターの理事会で議決されました。

また、新法人はその公共性からみて旧センターのように製薬会社が設立母体となることは好ましくなく、製薬企業はこれに協力する形が望ましいということで、設立発起人代表者として佐々貫之先生（元関東逓信病院院長・JAPIC初代会長）を選出、医、歯、薬、製薬から選出し、設立発起人が決定しました。

その後、東京都知事経由で厚生大臣宛設立許可申請書を提出し、厚生省での審議の結果、1972年12月1日付けで設立許可を得、ここに財団法人日本医薬情報センターが正式に発足することとなりました。

JAPIC設立当時のわが国の科学技術情報活動全般の中で、NIST（国家科学技術情報の全国的流通システム）構想というものがあり、その中でJAPICは、医薬品に関する専門情報センターとしての役割を期待されました。NIST構想における専門センターの役割は、主として特定専門分野の文献資料の収集、処理、提供を考えたものですが、JAPICは特に“医薬品についての安全性ならびに有効性に関する情報の収集と提供を主な役割とする”専門センターとしての活動を行うこととなり、医薬品に関する文献資料以外に医薬品そのものについてのナマ情報等を含む具体的事実（fact）やデータ等をも対象とする幅の広い情報活動が期待されていたわけであります。

以上、JAPIC誕生のいきさつについて、簡単にご紹介しましたが、会員の皆様をはじめとする関係各位のご協力のおかげをもちまして37年を経過することとなりました。JAPICもこれから節目の創立40年に向かって歩みを進めて参りますが、今後とも会員の皆様の益々のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より －（抜粋）

2009 年 6 月 1 日～6 月 30 日分のJAPIC WEEKLY NEWS（No.209-213）の記事から抜粋

【 米FDA 】

●FDAは抗甲状腺剤propylthiouracilを投与した成人、小児患者における重篤な肝障害（肝不全、死亡など）について医療専門家に警告

●AERS データベースで特定された重篤なリスクのシグナルの可能性／新たな安全性情報に関する四半期報告（2008年第4四半期）：Apomorphine（Apokyn）など

●FDA、処方箋薬およびOTC薬のacetaminophen（paracetamol）の使用に関連した肝障害の可能性について検討する諮問委員会を2009年6月29日～6月30日に開催する予定

●米FDA、ロイコトリエン阻害剤montelukast（Singulair）、zafirlukast（Accolate）、zileuton（ZyfloおよびZyflo CR）の表示変更を要求（市販後報告からの精神神経系有害事象について）

●MedWatch「安全性に関する表示変更（2009年5月）」：Advil（ibuprofen）など

●注意欠陥多動性障害（ADHD）の小児に使用される興奮薬の安全評価について

●米FDA、安全性評価中のCefepime（商品名 Maxipime）に関する最新情報を発表（投与患者における死亡率は高くないことについて）

●FDA Drug Safety Newsletter（Vol.2, No.2, 2009年）：Zoledronic Acid（Reclast）、診断用Arginine hydrochloride（R-GENE 10）など

●米FDA、varenicline（Chantix）およびbupropion（Zyban、Wellbutrinおよびジェネリック薬）の重篤な神経精神症状リスクを強調する枠囲み警告の追加およびMedication Guidesの作成を要請

【 Health Canada 】

●Hoffmann-La Roche LtdのCellCept（mycophenolate mofetil）に関連した赤芽球癆（PRCA）の潜在リスクについて

●Health Canada、Piroxicamの製品表示を改訂し、急性の疼痛および炎症に使用しないよう通知

【 EU・EMEA 】

●Clopidogrelとプロトンポンプ阻害剤の相互作用の可能性に関するPublic Statement

●Press Release：ウイルス汚染によるCerezymeおよびFabrazymeの供給不足について-治療が最も必要な患者を優先して提供

●Press Release：EU・EMEA、insulin glargineの安全性（癌のリスクについて）に関する最新情報を発表

【 英MHRA 】

●Niche Generics Ltd およびActavis UK LtdのOxybutynin Hydrochloride 5mg 錠に関するClass 1 Drug Alert（活性成分が不均一に含まれている可能性があり、過量投与となるおそれがあるとして回収中）

【 独 BfArM】

●独BfArM、Metamizol［sulpyrine（hydrate）］（Novalgin、Berlosin、Novaminsulfonなど）の正しい適応症および使用上の注意や警告について注意喚起

●独BfArMは、Cimicifuga含有医薬品（ホメオパシー製品も含む）に関連した肝傷害のリスク増加について製品情報に追加するよう要請

●Ibuprofenと低用量aspirinの相互作用について：製品情報の記載に関する更新情報

●InsulinおよびInsulinアナログ製剤：独BfArMおよびEU・EMEAは癌リスクについての研究結果を評価

【 厚生労働省 】

●第8回リン酸オセルタミビルの臨床的調査検討のためのワーキンググループ（臨床WG）資料

【 医薬品医療機器総合機構 】

●使用上の注意の改訂指示（平成21年5月29日指示分）：リン酸二水素ナトリウム一水和物・無水リン酸水素二ナトリウム、ブロナンセリンなど

●医薬品・医療機器等安全性情報258号：選択的セロトニン再取り込み阻害剤（SSRI）等と攻撃性等について、重要な副作用等に関する情報；イソフルランなど

JAPIC事業部門 医薬文献情報（海外）担当

# Library

図書館だより No.230

## 【新着資料案内　平成21年5月29日～平成21年7月2日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索（http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm）の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館（TEL 03-5466-1827）までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順 〉

| 書　名 | 著者名 | 出版社名 | 出版年月 |
|---|---|---|---|
| 改訂2版 透析患者への投薬ガイドブック 慢性腎臓病（CKD）の薬物治療 | 平田 純生 他編著 | じほう | 2009年6月 |
| 結核診療ガイドライン | 日本結核病学会 編 | 南江堂 | 2009年6月 |
| クリニカルパス用語解説集 | 小西 敏郎 監修 | 日本クリニカルパス学会 | 2009年6月 |
| Medicin.dk 2009 | | Infomatum | 2009年 |
| MIMS New Ethicals JUL-DEC 2009 Issue11 | Elizabeth Donohoo et al | CMPMedica (NZ) Ltd. | 2009年 |
| PDR for Nutritional Supplements.2nd Edition | Bette LaGow | Thomson Reuters | 2008年12月 |
| PDR for Ophthalmic Medicines, 2009 37th ed | | Thomson Reuters | 2008年11月 |
| PDR: Guide to Drug Interactions, Side Effects, and Indications, 2009/63rd ed. | Bette LaGow | Thomson Healthcare | 2008年 |
| Red Book Pharmacy's Fundamental Reference 2009 Edition | Thomas F. Rice | Thomson Reuters | 2009年 |
| 臨床薬理学用語集 第2版 | 日本臨床薬理学会 編 | ライフサイエンス出版 | 2009年5月 |
| 最近の新薬 2009（薬事日報版 2009年度版） | 薬事日報社 編 | 薬事日報社 | 2009年6月 |
| 頭頸部癌診療ガイドライン 2009年版 | 日本頭頸部癌学会 編 | 金原出版 | 2009年3月 |

# 情報提供一覧

## 【平成21年7月1日～7月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当（TEL 03-5466-1812）までお知らせ下さい。

| 情報提供一覧 | 発行日等 |
|---|---|
| 〈出版物・CD-ROM等〉 | |
| 1.「医薬関連情報」7月号 | 7月31日 |
| 2.「Regulations View Web版」No.170－171 | 7月17日·7月31日 |
| 3.「添付文書入手一覧」2009年7月分（HP定期更新情報掲載） | 7月31日 |
| 4.「JAPIC NEWS」No.304 | 7月31日 |
| 5.「JAPIC医療用医薬品集2010」「薬剤識別コード一覧」 | 7月31日 |
| 6.「重篤副作用疾患別対応マニュアル第3集」 | 7月31日 |
| 7.「JAPIC医療用一般用医薬品集インストール版2009年7月版」 | 7月31日 |
| <医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等>　（FAX、郵送、電子メール等で提供） | |
| 1.「医薬関連情報　速報FAXサービス」No.692－696 | 毎　週 |
| 2.「医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Qサービス）」 | 毎　週 |
| 3.「JAPIC-Q Plusサービス」 | 毎月第一水曜日 |
| 4.「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス（JAPIC Daily Mail）」No.1983－2004 | 毎　日 |
| 5. JAPIC Weekly News　No.212－216 | 毎週木曜日 |
| 6.「感染症情報（JAPIC Daily Mail Plus）」No.299－302 | 毎週月曜日 |
| 7.「PubMed代行検索サービス」 | 毎月第一・三水曜日 |
| 8.「JAPIC医療用医薬品集2009」更新情報2009年6月版 | 毎月10日 |

| JAPIC作成の医薬品情報データベース | 更新日 |
|---|---|
| 〈iyakuSearch〉Free　http://database.japic.or.jp/ | |
| 1. 医薬文献情報 | 月 1 回 |
| 2. 学会演題情報 | 月 1 回 |
| 3. 医療用医薬品添付文書情報 | 月 2 回 |
| 4. 一般用医薬品添付文書情報 | 月 1 回 |
| 5. 臨床試験情報 | 随　時 |
| 6. 日本の新薬 | 随　時 |
| 7. 学会開催情報 | 月 2 回 |
| 8. 医薬品類似名称検索 | 随　時 |
| 9. 効能効果の対応標準病名 | 随　時 |
| 〈iyakuSearchPlus〉　http://database.japic.or.jp/nw/index | |
| 1. 医薬文献情報プラス | 月 1 回 |
| 2. 学会演題情報プラス | 月 1 回 |
| 3. JAPIC Daily Mail DB | 毎　日 |
| 4. Regulations View DB　（要:ID／PW） | 月 1 回 |
| 外部機関から提供しているJAPICデータベース | |
| 〈JIP e-infoStreamから提供〉　https://e-infostream.com/ | |
| 〈JST　JDreamⅡから提供〉　http://pr.jst.go.jp/jdream2/ | |

JAPIC 赤ジャピ35年の伝統を守り薬剤師を中心とした専門のスタッフが丁寧に作成しています。

2009年 7月末発売

# 医療用医薬品集2010〈検索用CD-ROM付〉

## ■本書の特長

◆35年の編集実績による信頼と使いやすさ
◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
◆検索用CD-ROM（非インストール版）付
◆便利な「薬剤識別コード一覧」
（冊子。別売2,940円 税込）の無料請求葉書付
◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収載
◆更新情報メールの無料提供（要登録）
◆シールタイプの更新情報サービス（有料）

## ■検索用（非インストール版）CD-ROMとは

◆収録内容
◎医療用医薬品集
◎一般用医薬品集
◎薬剤識別コード一覧
◎薬価情報
◎後発品の全情報
◎医療用医薬品の最新添付文書画像（PDF）の表示機能付（無料・要インターネット接続。PDFは月2回更新）

定価：8,000円（税込）
（※インストール版は15,000円（税込）で別途販売しております。）

**13,650**円（税込）　B5判／約3,300頁

財団法人 日本医薬情報センター（ジャピック JAPIC） 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善 出版事業部 発売 TEL 03-3272-0521

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース（添付文書データ及び病名データ）の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC（TEL 0120-181-276）まで。


# ガーデン

このコーナーは薬用植物や
身近な植物についてのヒトクチメモです。
リフレッシュにどうぞ!!

## ちょうせんあさがお

曼荼羅華、南蛮朝顔、キチガイなすび、トゲなすび。牧野図鑑の「ちょうせんあさがお」はこのように花は上を向いて咲く。華岡青洲が麻酔にもちいた成分はこの種の植物からとったものだろう。（ks）

JAPICホームページより
http://www.japic.or.jp/

HOME ▶ サービスの紹介 ▶ ガーデン
Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15 長井記念館3階、5階
TEL 03-5466-1811 FAX 03-5466-1814 e-mail:gyoumu@japic.or.jp URL:http://www.japic.or.jp/

＜禁無断転載＞JAPIC NEWS 2009年8月号2009.7.31発行（No.304）（1984.4.27 No.1発行）